

スポーツのまち春日部 全国レベルの 強豪校を訪ねて

春日部市には全国を舞台に活躍している小学校や中学校、高校がある。

強さの秘密はどこにあるのだろうか。それぞれの学校を訪ねた。

**繰り返し強い相手と
剣を交え、心を磨く**

「中学で3年間剣道を続けたことで、心が磨かれ、いろんなことに耐えられる強さが身についたと思います」

と語るのは、大沼中学校女子剣道部の横川胡桃さん（3年生）だ。平成27年埼玉県学校総合体育大会中学校剣道の部で個人優勝を果たした。



強くなるには「競うこと」と、情熱を持って指導する松岡教諭（中央）。

同女子剣道部は全国屈指の強豪校だ。平成24年の全国大会の団体戦（48校中）で、準優勝に輝いた。それまでの埼玉県勢の最高成績は全国3位。記録を塗り替えた形だ。しかも、以来4年連続の全国大会出場を成し遂げている。
強さの秘密はどこにあるのか。

同校の矢部勇介校長は、

「剣道は心（精神力・技術・体力）を重んじる武道。この順番通り、まずは精神力を鍛えることが大切です」

いくら技術を身につけたとしても、相手を前に「ダメかも」とひるんだら、その瞬間に負ける。勝敗は、7、8割方が気持ちで決まるのだという。

「真の強さを身につけるためには『競うこと』。それとできるだけ自分より強い相手と繰り返して戦うことです」

と語るのは、監督を務める松岡光弘教諭だ。

「何度も負けて悔しい思いを重ね、『次こそは勝とう』と誓い、そのための苦しい練習に耐えることで、だんだん心が強くなるのです」

女子剣道部では日ごろから男子部員と練習試合をしている。前出の横川さんは「男子の力はすごく強い。男子が練習につきあってくれるおかげで女子の力がついていると思います」と語る。

また、土日は毎週のように、県内はもとより、群馬や神奈川、千葉など県外の強豪校等に遠征し、強い生徒たちと練習試合をする。そして、火曜日から金曜日までは、試合で見つけた弱点を徹底的に鍛え直す。

この繰り返しの練習によって、「心」も「技」も高まっていく。剣道で身につけた精神力や忍耐力は日常生活でも生かされている。学級委員や体育委員などで、剣道部員がリーダーシップを取っている例は少なくないという。



「勝つことよりも、相手の礼儀作法を見て、『自分自身はどうだろう』と、見直せるのが好きです」（横川さん）。

**次は全国制覇を
目指したいです！**



主将の
小川さん



全国レベルの強豪校を訪ねて

【大沼中学校】女子剣道部

毎日の稽古で全力を尽くしています！
竹刀を握ると心が落ち着きます。

中学校で必修化されるなど武道が注目されている。その背景として「武道は日本に古くからあり、相手を思いやり礼を尽くすスポーツ。心も身体も鍛えられるところが注目されている」と矢部校長。

保護者と指導者と生徒の 絆が強さを支える

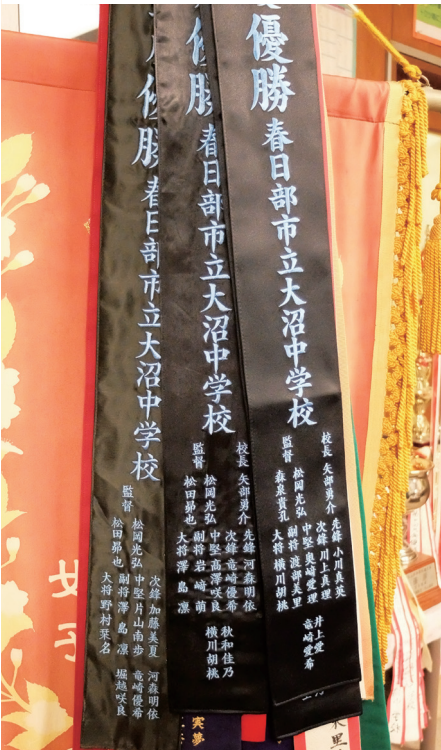
平成27年11月に開催された県の新人体育大会でも団体戦で優勝した。主将を務めた小川真英さん（1年生）は、「試合で勝てたのは、先生や保護者の方々のおかげです」という。

剣道部では、保護者たちが「絆クラブ」という組織をつくり、子どもたちをバックアップしている。練習は放課後に行われるが、下校時刻までの時間は少ない。そこで、下校時刻の後は、保護者がつき、絆クラブが「社会体育」として体育館を借りる形で練習を続けている。遠征の際に車を出し、部員たちの送り迎えをするのも保護者たちだ。

情熱を持って指導する教師に、練習に励む部員たち、そしてサポートする保護者。大沼中の剣道部の強さは、この三者の強い絆が支えている。



「試合で勝つと、生徒も親御さんも本当に喜ぶ。その姿に毎回感動させられます。そこが指導者冥利に尽きるところです。だからまた勝たせたい」と松岡教諭。大沼中学校女子剣道部の現在の目標は、2年後に全国優勝を果たすこと。日本一の剣道部を目指し、今日も練習を続けている。



（左上）試合を待つ大沼中学校女子剣道部の部員。「自分が緊張すると部員に緊張が伝染する。試合前には、まずは自分から落ち着くよう心がけています」と松岡教諭。（左下）校長室に飾られた優勝旗。（右上）平成27年の県新人体育大会で一本を決めた小川さん。「練習は苦しいけれど、県大会で優勝できたときは言葉にならないほどうれしかった」（右下）平成27年8月に開催された全国中学校剣道大会。3年生は大沼中学校に入学してから剣道を始めた部員もいるなか、団体戦で全国大会にも出場した。

